

「税の作文」で佐原税務署長賞を受賞

中学生に税の大切さを知ってもらう「税についての作文」コンクール。香取管内の中学校より応募された1171点の作文の中から、厳正審査のもと、神崎中学校3年生の松下みのりさんが佐原税務署長賞を受賞し、有光優衣さんが佐原税務署管内納税貯蓄組合連合会賞佳作となりました。今年度、入賞した松下さんの作文を紹介します。



松下みのりさん

税と向きあひ

私は税について良いイメージがわかない。歴史で見たフランス革命前の厳しい税制度の風刺画に、最近のニュースで聞いた税の無駄遣い。私は消費税を納めているが、税を納めてよかった、と思ったことは一度もない。正直、嫌なイメージばかりだ。

しかし、税の作文を書くために調べてみると、ある国に興味があった。スウェーデンだ。そこはなんと消費税が二十五パーセント。もし日本がそうなったら百円ショップが全品二十円値上がりだ。日本では考えられないほど税金が高いスウェーデンでは、意外にも高い税に批判があまりない

そうだ。実はスウェーデンは集まった税で、小学校から大学までの学費や子供の医療費を無料にするなど、社会保障を充実させている。税を払えば生活が良くなっていく、というのがスウェーデンの人々の考えのようだ。

このことを知り、私は、自分の持つ税に対するイメージが間違っていることに気づいた。税は私達の生活に返ってくるものだ。嫌なイメージばかりではなく、税について正しい知識を持たなければいけない。実際に税が使われているものを調べてみると、数えきれないほどあった。病院、警察、道路、消防署…。しかも身近なものばかりだ。特に私に身近な学校でもたくさん税が使われている。九年間の義務教育で使われる税は、一人当たりなんと約七百八十五万円。元々は見ず知らずの人のお金だった七百八十五万円で、私は漢字の読み書きや難しい計算を身につけることができた。そう思うと、感謝の気持ち

が込み上げてくる。税は本当に生活に必要で、大切なものということを知らなかつた自分が恥ずかしかった。

税の大切さは、今もこれから変わらないだろう。私達が大人になつた未来で税はどんなことに必要とされるのかなど、これから大人になる立場として知っておかなければいけないと思う。例えば、少子高齢化があげられる。高齢者の生活は、医療・年金・介護などに税が必要となってくる。少子高齢化が進むと、高齢者が十分な税によるサービスを受けられなくなったり、若い人の税の負担が大きくなったりする。その他の問題に、日本の国債費が増えていることや、国・世界の環境問題などがあるそうだ。これらの問題を、今までの税の集め方・使い方では解決はできないと思う。未来の生活をより良いものにするために、税のあり方を考えていくべきだと思つた。

税とは私達の生活を支えてくれるものであり、その税を支えるのは私達納税者である。つまり、税とは私達が私達自身の幸せな生活をつくるシステムといえる、と私は思う。確かに税は難しい事がたくさんあり、中学生である私はまだ少ししか知らない。しかし、だからこそ私は税のことをもっと知り、考え、これから税と向きあつて生きていきたい。

白い花の咲く木（ヒトツバタゴ）を町内の公共施設や各地区のコミュニティセンター等に植樹し、親しみとふれあいのあるまちづくりを推進するため、10月から11月にかけて、「花の咲くなんじゃもんじゃ植樹募金」をお願いいたしました。募金の趣旨に賛同していただいた町民の皆さまには大変感謝しております。また、取りまとめを行っていただいた各地区の区長及び世話人の方には大変ご苦労さまでした。

皆さまからの募金額は667,750円になりました。今後はこの募金で苗木の購入や植栽等の経費として活用してまいります。

花の咲く
なんじゃもんじゃ
植樹募金のお礼

募金額は667,750円